
この気持ちは・・・！？ ~氷雛小説 後編~

ひな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この気持ちは・・・！？（氷雫小説 後編）

【Zコード】

N4672K

【作者名】

ひな

【あらすじ】

氷雫小説 後編などのさ～

氷輪丸の前に雑森が立つ・・・。

「氷輪丸さん・・・。」

「あ・・・・・。」

ずいっ。

「え・・・?」

突然氷輪丸の顔に真新しい雑巾が押し当たられる・・・。

「何を・・・?」

「何をひいて、床をふくんだんですよ。田畠谷くんが起きたときによべつて転んじゃつ

たらたいへんじゃないですか。」

「我が主はそんなデジではないと黙りのだが・・・。」

わっ・・・・

雛森が氷輪丸をにじみながら、『いいからせつやとふいてくださいつー。』と怒鳴る。

そんな雛森の言葉に氷輪丸は反射的に反応してせつせと床をふいた・
・・。

またの沈黙・・・。

黙々と床をふく2人・・・。

勇音は別の患者のところに行き、部屋には雛森と氷輪丸・・・そしていまだ靈力が回復

せず眠つてゐる日番谷だけしかいない。

なんか・・・気まずいな・・・。

勇音さんもいなし・・・日番谷くんも寝てるし・・・。

だいたい私、氷雪系最強の斬魂刀さんにこんな雑用させいやつて・・・。

氷輪丸さん・・・怒つてるかな・・・。

今更ながらそんなことを思つ雛森・・・だがそんな雛森の思いとは裏腹に

一方の氷輪丸はと/orと、

なんなんだこの気持ちは恐怖…………ではない…………恐れ…………でもない。

だがものかうべども、おのれの氣持ちは、

そんなことを考へこんでいた。・・・。

お互いをちらちら見合つゝ人・・・そういうしてゐるうちに早一時間。

床などとつの昔に乾いていた。・・・。

なんの理由もなくただ乾いた床をせつせとふく・・・いや、これは磨くの

分類に入っていた・・・。

意味もなく離森と氷輪丸の床だけ輝いてる・・・。

だが2人とも手を止めない・・・そういうふうにやつとの

思いで離森が終わりを告げる。

「あ、そろそろ終わりにしませんか・・・？」

「床もきれいになりましたし・・・ね？」

もはやひとしきの田的など関係なくなつてきている。

「ああ・・・。」

「私、雑巾洗つてきますよ・・・氷輪丸さんの雑巾も貸して・・・。
！」

そういうて立ち上がった瞬間、雑森を激しいめまいが襲う・・・。

「あつ・・・・・。」

倒れそうになつて雑森を慌てて自分のほうに引き寄せる氷輪丸。

「す、すみません。また私・・・・・。」

田の前には氷輪丸の顔・・・。

「あつ・・・・も、もう大丈夫なんで離してくださいよ・・・。」

せつこうへあはれる離森を離さない・・・せつして氷輪丸が離森に
触れよひとしたとき・・・

ばん！

いきなり窓が開く・・・

そこから入ってきたのは灰猫と飛梅だった。

「ダーリーン……会いたかつたあ～！～」

氷輪丸に抱きつける灰猫

「ちよつと灰猫ー！」は敵地なんだからもつと小さご声で・・・し
や・・・

そんな灰猫のしつぽを押さえつける飛梅

だが視界の中にお互いが入った瞬間固まる双方の2人・・・そしてしばらくして灰猫・飛梅が動く・・・

「ちょっと・・・あんた雛森じゃない? あたしのダーリンになにやつてんのよ。」

そういうて氷輪丸から雛森を無理やりはがし自分が氷輪丸に抱きつく灰猫。

「ダーリン! もお浮気なんて許さないんだから・・・ダーリンにはあたしがいるでしょお! ! !

そういうて氷輪丸に迫る灰猫・・・

そしてそのてから逃げよつとする氷輪丸・・・

そんな2人のやりとりを半分あきれながら見ている雛森・・・その
雛森の手を誰かが

強く握る・・・そして続の瞬間・・・！

ドカーン!!

・・・ガラガラ・・・・!!

氷輪丸と灰猫のすぐ後の壁が壊される・・・

「ちよつ・・・!飛梅!! あんたなにすんのよー!」

飛梅に詰め寄る灰猫・・・だが飛梅の視界の中には灰猫など入って
ない・・・。

「氷輪丸さま……あなた」の声こもったいなこしたの……？」

飛梅が強く手を握った自分の手と氷輪丸の顔を見る

「は・・・・?」

しゃりん・・・鈴を握る

「はじやなくて……いったいなこしたのか聞いてるんです……。」

「

しゃりん・・・しゃりん・・・鈴を強く握る

「こやこの……間違つて……うう……なつてしまふ……。」

しゃりん・・・！鈴を振り上げる！ そつ真面目に答える氷輪丸
に火球が飛ぶ・・・。

「あなた・・・間違つてつてど」をどう間違つたらあんなふうになるつていうんですか！！

だいたいあのやらしい抱きしめかた・・・あのメガネを思いだすわ！－き－－つ－－！」

飛梅の怒りは収まらない・・・壁には無数の穴・・・。

床にのびる灰猫・・・そして氷輪丸・・・。

雑森がやつとのじでとめるには・・・病室はめちゃくちゃになつて

氷輪丸は髪の毛が爆発していた・・・。

『……あのときの気持ちはなんだつたんだろう……』だが
氷輪丸はこの後

今おこった出来事の記憶をすべて忘れる事になる……。

收まりきらない飛梅の怒りによつて……。

「まつたく……まままつたくありえないは……あの人にはんことをへーー！」

～終わり～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4672k/>

この気持ちは・・・！？～氷雛小説 後編～

2011年10月10日01時22分発行